

フィンランド語：重箱の隅⑮

結果文

「フィンランド語との対話—吉田欣吾」

<https://yoshidakingo.com/>



参考資料

- ① Hakulinen, Auli, Maria Vilkuna, Riitta Korhonen, Vesa Koivisto, Tarja Riitta Heinonen ja Irja Alho. 2005. *Iso suomen kielioppi*. Suomalaisen kirjallisuuden seura. 847-862, 912-913.
(*Ison suomen kieliopin verkkoversio*.
[<https://scripta.kotus.fi/visk/etusivu.php>])
- ② Helasvuo, Marja-Liisa & Tuomas Huumo. 2010. ”Mikä subjekti on?”. *Virittäjä*. 2/2010. 165-195.
[<https://journal.fi/virittaja/article/view/4328/4042>]



特別な文のタイプ一覧 (1)

(「重箱の隅⑨」より)

特別な文のタイプ (1)			
文のタイプ		主題	
①	存在文 (Eksistentiaalilause)	Pöydällä	on kirjoja.
		机の上に	何冊か本がある
②	所有文 (Omistuslause)	Vaarilla	on saari.
		爺さんには	島がある
③	現象文 (Ilmiölause)	—	Syttyi sota.
		—	戦争が勃発した
④	状況文 (Tilalause)	Ulkona	sataa.
		外では	雨が降っている 

特別な文のタイプ一覧 (2)

(「重箱の隅⑨」より)

特別な文のタイプ (2)

文のタイプ		主題	
⑤	数量文 (Kvanttorilause)	Meitä	on kolme.
		我々は	3名だ
⑥	結果文 (Tuloslause)	Meistä	tulee kuuluisia.
		我々は	有名になる
⑦	感情使役文 (Tunnekausatiivilause)	Minua	pelottaa.
		私は	怖い
⑧	属格で始まる文 (Genetiivialkuinen lause)	Minun	täytyy mennä.
		私は	行かなければならない

自動詞を使う結果文

	出格の名詞	動詞	補語
自動詞	Meistä	tulee	kuuluisia ~ tanssijoita.
	我々は	なる	有名に ~ ダンサーに
	Sadosta	muodostui	keskinkertainen.
	収穫は	なった	平凡なもの

他動詞を使う結果文

	主語 + 動詞	出格の名詞	動詞	補語
他動詞	Tämä tekee	meistä		kuuluisia ~ tanssijoita.
	これはする	我々を		有名に ~ ダンサーに
		Sadosta	odotetaan	keskinkertaista.
		収穫は	予想する	平凡なもの

自動詞による結果文の例

Sienestä tuli iso. 「キノコは大きくなった」

Nattosta tuli suosittu ruoka Edo-kaudella.

「納豆は江戸時代に人気の食事となった」

Kokouksesta tuli pitkä. 「会議は長引いた」

Pojasta kasvoi mies. 「少年は男へと成長した」

Toukasta kehittyi perhonen. 「幼虫は蝶へと成長した」

Kuluvasta vuodesta muodostuu aikaisemmasta poikkeava.

「過ぎようとしている一年は以前とは異なるものとなりつつある」

他動詞による結果文の例

Pekka teki **pöydästä korkean** ~ **kahvista väkevää**.

「Pekkaは机を高くした～コーヒーを濃くした」

Odotamme **hänestä kärkipelaajaa**.

「我々は彼女がストライカーになることを期待する」

Tästä vuodesta ennustetaan **tappiollista**.

「今年は赤字になると予想している」

Armeija kouluttaa **pojista sotilaita**.

「軍は少年たちを兵士へと訓練する」



結果文と存在文の構造

- 結果文の構造は存在文とよく似ている

Meistä **tulee** tanssijoita. 「我々はダンサーになる」

Huoneessa **on** tanssijoita. 「部屋にはダンサーたちがいる」

- Huoneessa on tanssijoita.では、huone と tanssijoita

はまったく別のもの。tanssijoita は「主語」。

- Meistä tulee tanssijoitaにおいて、tanssijoita は me

について説明をしている。



結果文の存在文の違い

● Meistä tulee tanssijoita の tanssijoita は補語

⇒ 「定性（定／不定）」により形が変わる。

{ Pöydästä tuli korkea. 「机は背が高くなった」

{ Pöytä on korkea. 「机は背が高い」

{ Puurosta tuli sakeaa. 「お粥は濃くなった」

{ Puuro on sakeaa. 「お粥は濃い」

{ Pöydistä tuli korkeita. 「それらの机は背が高くなった」

{ Pöydät ovat korkeita. 「それらの机は背が高い」

補語の格と定性（「重箱の隅⑧」より）

	主語の性質	補語の格	形容詞が補語
単数	分けられない（定）	主格	Tämä kuppi on aika iso .
	分けられる（不定）	分格	Tämä tee on liian kuumaa .
複数	分けられる（不定）	分格	Nuo otukset ovat outoja .
	分けられない（定）	主格	Nämä sakset ovat tylsät .

結果文と変化文 (1)

●結果文 (tuloslause) と変化文 (muutoslause)

{ Meistä tulee kuuluisia. 「結果文」

{ Me tulemme kuuluisiksi. 「変化文」

「我々は有名になる」

{ Tämä tekee meistä kuuluisia. 「結果文」

{ Tämä tekee meidät kuuluisiksi. 「変化文」

「これは我々を有名にする」



結果文と変化文（2）

●新しいもの・永続的 ⇔ 変化・一時的

Hänestä tuli presidentti. 「彼は大統領になった」

Hän tuli sairaaksi. 「彼は病気になった」

●名詞 ⇔ 形容詞

Tytöstä tuli taiteilija. 「少女は芸術家になった」

Tyttö tuli hulluksi. 「少女は正気を失った」



結果文と変化文 (3)

●結果文のみが可能だと思われる表現

Kakusta tuli **suussasulava**.

「ケーキはとろけるような味になった」

Lapsesta tuli **tyttö**. 「子どもは女の子だった」

Avioliitosta tuli **onnellinen**.

「その結婚は幸福なものとなった」

Hänestä odotettiin **uutta Garboa**.

「彼女は第二のガルボになると期待されていた」

変化文で使われる動詞

●変化文で使われる代表的な動詞

muuttua 「変わる」、ryhtyä 「始める、なる」

valmistua 「できあがる、（資格・学位をとって）なる」

vaihtua 「替わる」

Sää muuttuu lämpimäksi. 「天気は暖かくなる」

Hän ryhtyy yrittäjäksi. 「彼女は実業家になる」

Tyttö valmistui opettajaksi. 「少女は教員の資格を得た」

Syksy vaihtuu talveksi. 「秋が冬にかわる」



結果文の訳例について

Pekka teki **pöydästä** **korkean** ~ **kahvista** **väkevää**.

「Pekkaは机を高くした～コーヒーを濃くした」

- 厳密にいうと、この日本語訳は不正確かもしれない。これらは、すでに存在する机やコーヒーに手を加えて「より高く」「より濃く」したという意味ではないだろうと思う。結果文の意味しているのは、机を作っていて結果的に「高い」机を完成させた、コーヒーを入れていて「濃い」コーヒーにした、ということの意味しているのだと思う。

「重箱の隅⑧」より転載

主格・属格か分格かを 決定する要因	目的語	主語 (存在文)	補語
定性（定／不定）	●	●	●
相（完了／未完了）	●	×	×
否定（肯定／否定）	●	●	×

自動詞による結果文の「補語」

- 否定文では動詞の後ろに来る語が分格になる。
Pöydästä tulee **korkea**. 「机は背が高くなる」
Pöydästä ei tule **korkeaa**. 「机は背が高くない」
- 補語の形は否定の影響を受けなかったことを考えるとおかしい。
- 否定の影響を受けて分格になるのは存在文の「主語」と他動詞文の「目的語」だった。
- 結果文の「補語」はいったい何者か。



他動詞による結果文の「補語」 (1)

- 他動詞の結果文で補語は出格の名詞に合わせて属格か分格になる。そして否定文では分格になる。

Hän teki **pöydästä** **korkean**. 「彼は机を高くした」

Hän teki **kahvista** **väkevää**. 「彼はコーヒーを濃くした」

Hän ei tehnyt **pöydästä** **korkeaa**. 「机を高くしなかった」

- 属格と分格を使い分けるのは「目的語」だった。



他動詞による結果文の「補語」 (2)

- 「補語」の形により相（完了／未完了）を表現する。
Hän teki **pöydästä korkean**. 「彼は机を高くした」
Hän teki **pöydästä korkeaa**. 「彼は机を高くしようとしていた」
- 否定文で分格になり、また相（完了／未完了）を表現できるものは「目的語」だった。
- 結果文の「補語」はいったい何者か。



「重箱の隅⑧」の資料を修正

主格・属格か分格かを決定する要因	目的語	主語	補語	結果文の補語
定性（定／不定）	●	●	●	●
相（完了／未完了）	●	×	×	●
否定（肯定／否定）	●	●	×	●

- 結果文の「補語」は主語や目的語の特徴を多く備えている。このことから分かることは、「主語」「目的語」「補語」といった分類も絶対的なものではないということか。



次回以降の予告

- 「重箱の隅⑩」

「感情使役文」について検討する。

- 「重箱の隅⑪」

「属格で始まる文」について整理をして

「文のタイプ」の話は終わり。

